

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	S-step キッズ			
○保護者評価実施期間	2026年 5月 25日		～	20256年 6月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28名	(回答者数)	23名 85%
○従業者評価実施期間	2026年 6月 10日		～	2026年 6月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名 100%
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 7月 6日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	同一法人内に生活介護・就労継続支援B型等の事業があり、卒業後を見据えた継続的な支援体制が整っている。	面談時には学年や発達段階に応じた進路の話をし、保護者の不安や相談に丁寧に対応している。また、新規利用時には「つながる支援」の説明を行い、将来像を共有している。	見学・実習・体験利用時の情報共有をさらに密にし、本人の強みや課題を関係機関と連携しながら継続支援へつなげていく。
2	職員間の連携が良く、チームとして一貫した支援が行えている。	日々の申し送りやケース会議だけでなく、支援の合間にも情報共有を行い、声かけや支援方法の統一を意識している。職員全員が利用児童の特性や課題を把握できるよう努めている。	支援の様子や成功体験を写真・動画等で記録し、職員間だけでなく保護者との共有にも活用することで、より具体的な支援改善につなげていく。
3	保護者との関係性が良好で、相談しやすい雰囲気づくりができています。	送迎時や連絡帳を通して日々の様子を丁寧に共有し、家庭状況や学校での様子も含めて支援に反映している。また、兄弟児対応など家族支援の視点も大切にしている。	学校や関係機関との情報共有をさらに深め、卒業後の生活や就労も見据えた支援内容を検討し、本人に必要な力を段階的に育てていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域や関係機関との連携に課題がある。	地域資源や他機関の役割について十分に把握できていない部分があり、事業所内で支援を完結させようとする傾向が見られる。	利用児童に関わる学校・相談支援専門員・他事業所等と定期的な情報共有の場を設け、役割分担や支援方針を共有していく。
2	利用児童の特性に応じた活動内容の幅に偏りが見られる。	障害特性や発達段階が多様であるため、全員に適した同一カリキュラムの提供が難しい状況がある。	活動内容を細分化し、個々の特性に応じた選択肢を増やすとともに、必要な補助具や教材の整備を進めていく。
3	新規利用者の獲得や事業所の特色発信に課題がある。	放課後等デイサービス事業所の増加により、事業所ごとの差別化が難しくなっている。また、空き状況と利用希望曜日のミスマッチも発生している。	事業所の強みや支援内容を分かりやすく整理し、関係機関への情報発信や見学対応を積極的に行う。SNSや広報ツール等の活用も検討していく。